

職業生活と家庭生活の両立を考えよう

家庭 家庭総合 情報流通科・第2学年
石川県立珠洲実業高等学校・教諭

1 事例の概要

本校の情報流通科では、ビジネスにおける基礎・基本を身に付け、ビジネス界で活躍できる人材の育成を目標としている。生徒の多くが卒業後、就職を希望しており、職業労働を身近なものとしてとらえている。一方、家事労働について、事前のアンケートでは、「日常的に全く行っていない」と回答した生徒が半数以上を占めており、家庭における家事体験が乏しいことが分かる。

また、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、賛成、やや賛成と回答した生徒が合わせて56%おり、固定的な性別役割分業意識を持っている生徒が多い。男女がともに家族の一員としての責任を果たし、自立した個人の生き方を尊重し、お互いを支え合う家族関係を築くために何が必要なのかを具体的な演習を通して考えさせたい。

2 実践内容

(1) 単元の目標

家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりに関心を持ち、男女が協力して家庭生活の充実向上を図ることの重要性に気づき、現在及び将来の家庭生活の在り方を考えることの大切さを認識する。

(2) 指導上の工夫点

① 実践的・体験的な学習の工夫

ア ロールプレイ

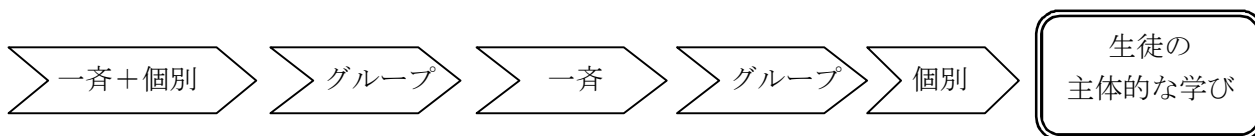
現在、職業生活を送っていない生徒に、ロールプレイを通して、実際に自分がその立場であったらどうするかを考えさせ、主体的に問題を解決するための契機にする。

イ ランキング

男女が協力して家庭を築くために必要なキーワードを考え、カードに記入する。それらに順位をつけてダイヤモンド型に配置することで、将来の家庭生活と職業生活の在り方について考えさせる。

② 授業形態の工夫

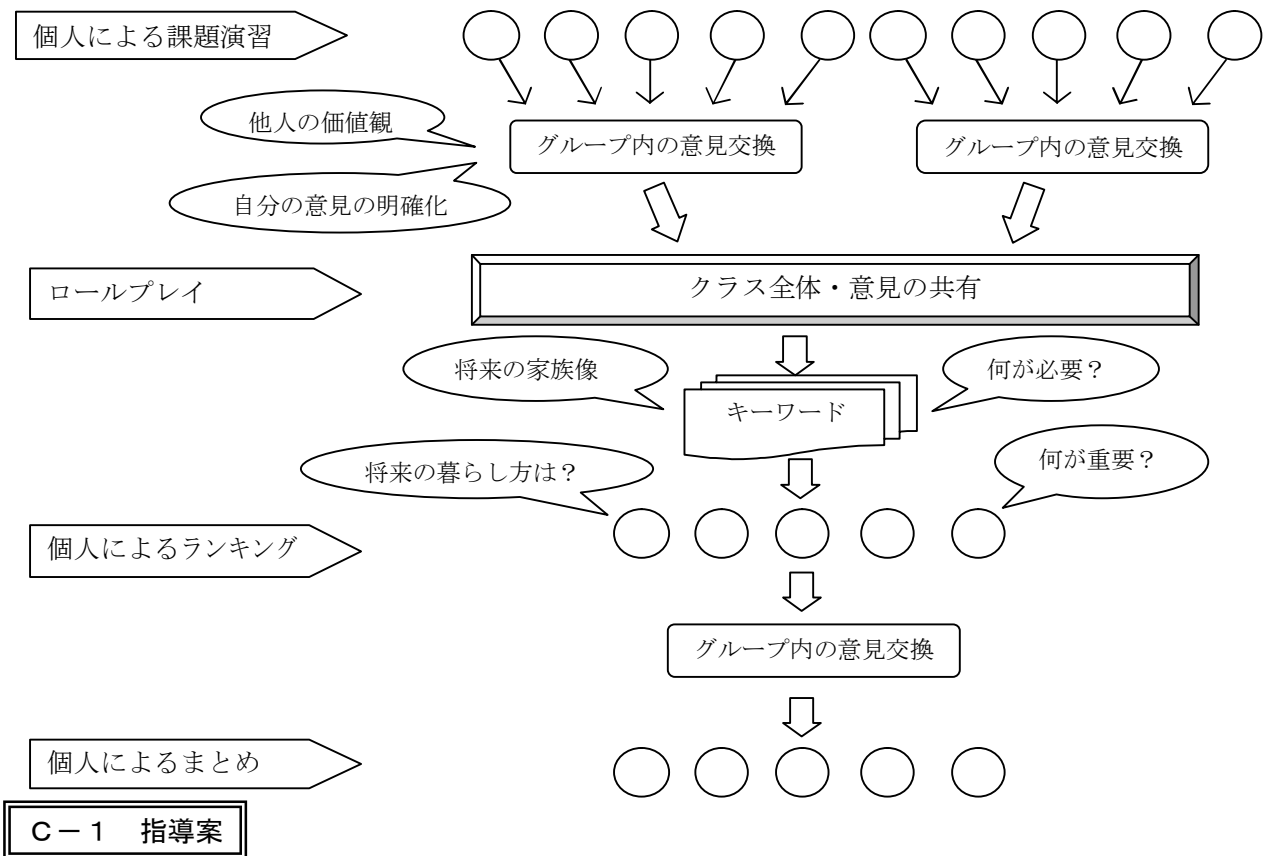
課題に対する自分の考え方や意見を一人一人が考える「一斉形態の中の個別学習」から、グループで相談し、意見交換しながら課題解決に取り組む「グループ学習」に入り、グループの意見を全体に紹介するとともに、他のグループの意見を知り、意見の共有を図る「一斉学習」を組み合わせた。これらの学習形態の工夫により、生徒が意欲的に学習に取り組み、内容を深めていくことが期待できる。



B-1 ワークシート①

B-2 ワークシート②

3 指導の実際



4 成果と課題

(1) 成果

生徒の感想から、ロールプレイを行うことで他者の意見を知ることができ、家族の価値観が多様であることや、お互いに歩み寄ることの重要性が認識できたことが分かった。また、ランキングの作業を通して、将来の自分の家族像や暮らし方をイメージすることができたようである。自分が将来どのような生活を望むのか、そのために必要なものは何かを真剣に考えていた。

授業後に行った意識調査では、「将来パートナーと協力して家事をしたい」と答えた生徒が 46% から 56% に増え、「協力して家事をしたくない」と答えた生徒がいなくなった。男女が協力して家庭生活を営む重要性が認識できている。

また、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成する生徒が 56% から 39% に減ったことから、男女がともに家庭生活の責任を果たし、人間らしい働き方をするためにはお互いの協力が大切であることが理解できたようだ。

個別学習によって自分の考えを見つめ直し、グループ学習においては多様な考え方を理解するための意見交換が活発に見られた。生徒の感想から、他者の考え方に気づき、考え方に広がりを持ったことが分かった。

(2) 課題

ランキングの演習の際、男女が協力して家庭を築くために必要な具体的なキーワードが生徒側からなかなか出ず、教師側の誘導が多くなりがちであった。実際に職業生活を送っておらず、家庭生活上で主として家事労働を担っていない生徒に、より自分の問題として考えることができるように、ロールプレイでは高校生を含む家族についても考えさせるなど場面設定を工夫する必要がある。

D-1 アンケート

D-2 生徒感想